

青雲

6号 2004.3

発行人 / (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

「青雲」

題 字

島根県知事 澄田信義氏



“風に向かって”

~ confront the head wind ~

その昔、順風満帆なFollowの風にあおられ、この建設業界は現在の基盤や社会システム構造を確立させた。しかし今、何も考えず、ただ快晴の天空が我々を抱いてくれる時代は終り、新時代への転換期を迎えている。この雄大な風車は、いかなる風をも受けとめ大きく回り続けようとしている。また、その風を自らの力として蓄えようとしている。

我々青年部の若い力は、これからの建設業を取り巻く様々なAgainstの風に対して、この風車の如く立ち向かっていく“志”が必要ではないでしょうか。

青年部メンバーにこの志あれ!!

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会 広報委員会



CONTENTS

目次

巻頭言/「いま、自己改革に挑む時」.....	①
(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会長 別所幸雄	
平成15年度卒業生より一言	
(有) 斐川建設 三代修治	②
(有) 梶谷建設 梶谷修二	②
(株) 新井建設 新井龍水	③
(有) 協和組 田中誠司	③
中国道路整備(株) 早戸弘司	④
MSP(マーメイド・スマイル・プロジェクト)概要説明	⑤
(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会 経営研究委員長 福田美樹	
平成15年度事業レポート	
『国道まるごとクリーンアップ作戦』に参加して... (有)協立工業 原 一基	⑦
『土木の日クリーンアップ作戦』を終えて... (株)日野組 日野敏行	⑧
視察研修に参加して..... 岩成建設(有) 岩成みち男	⑨
『明日への道を探して 2003』... (有)間壁組 間壁和弘	⑪
平成15年度新入会員紹介	⑫
(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会組織図	⑬
編集後記 広報委員長/山崎章弘	⑭

「いま 自己改革に挑む時」



島根県建設業協会出雲支部青年部会
部会長 別所幸雄

「建設業界の危機」といわれて数年何となく他人事のような気でいましたが、平成15年度より島根県の「財政健全化指針」によりいよいよ現実味を帯びてきました。そして、今年（平成16年度）は、新聞報道によると『島根県への地方交付税が約260億円の減となり、それに伴う財源不足額は約600億円と深刻となるため更なる歳出削減に努める方針』と記してあります。建設業界・建設関連産業ばかりか「地方経済の崩壊」と、事態はまさに風雲急を告げるような予感がするのは私だけなのでしょうか？（今まさにどうすることも I can not. の時代に突入か？）

この様に光が見えない真暗な長いトンネルに入った現状の今、我々若き建設人として何をすれば良いのか今一度見つめ直す時が来たように思います。古き良き時代に思いを馳せながら、周囲の環境に同調し身を任せている自分自身から脱却する時なのです。そして、原点に立ち返り、周りを冷静に見渡しながら何が自分に必要か、何が自分に大切かを冷静に判断する勇気が必要であると考えます。その為には、強靱な精神を持った己への変身。今までのような「甘えの体質」から「己に厳しく」への自己改革であると。

我々青年部会員は、これまでに様々な委員会活動の事業を通して、共通の価値観を培ってまいりました。そして“縦”から“横”へのネットワークが構築出来たものと確信しております。あとは、このネットワークを大いに活用し、この厳しい時代を乗り切るべく己の資質を磨き、明日に備える自分をつくりあげてゆくことが大切なのではないでしょうか。

“さあー いま 自己改革の時!!”

生きるも死ぬも自分次第なのです。誰も手を差し伸べてはくれないのです。本当に生き残りたいのであれば、歯を食いしばって頑張りましょう!!

青年部会を振り返って



(有)斐川建設 三代修治

卒業するにあたってまだまだ続けていきたいような楽しい部会でした。

印象に残った事業は、視察研修旅行・親睦ゴルフ大会・国道のクリーンアップ作戦などがありますが、特に現在継続中の新分野進出事業『藻礁プロジェクト』です。この事業は必ず成功させなければ、と思っていますが、何分にも「海」という自然を相手にしていますからどうなるかわかりません。が、皆さんの知恵と結束力をもって、なんとか道をつけていただきたいと思います。

そして、これからも有意義で楽しい部会であってほしいと思います。また、これで最後ではありませんので、これからもお付き合いよろしくお願い致します。

振り返って



(有)梶谷建設 梶谷修二

私もとうとうこの卒業文を書く年齢になりました。振り返ると、会の活動への参加は多くはありませんでしたが、その一つ一つが思い出となっています。

入会当初、私にとってこの会はとても魅力的なものであり、全体活動、委員会での活動、会をはなれてのテニス同好会などを通じて、沢山のひとと知り合うことができました。空缶拾いも、やっている時は楽なものではなかったけれども、知らなかった地域を知ることができたり、土木的立場からの目でいろいろな場所を見ることができました。

近年、活動への自身の参加は少なくなってしまいましたが、活動日が、日曜日であればもっと参加できたのと思います。

この会に参加して、沢山のひとと知り合えたことが、私にとって一つの財産となりました。



「振り返ってわかる 大切な事」

(株)新井建設 新井 龍水

私は平成9年の青年部会設立当初より入会させていただき、早いもので6年が過ぎました。入会当初は、会員の皆さんの会社名もお名前もわからず大変戸惑いましたが、良き先輩方の御指導により会を重ねるごとに、青年部会がなければ知り合えない方々との交流の場を持つ事が出来、大変多くの事を学びました。

また各事業において、国道まるごとクリーンアップ作戦では道路の大切さを身を以って再認識し、建設技術展では新技術と環境の大切さを学び、一番勉強になった視察研修では、人と人とのつながりと、和の大切さを教えられるなど、数々の知識を得る事が出来ました。さらに昨年からは、新分野進出という事で「MSP」にも参加させてもらい、未来を模索中でありませう。

私は今年で卒業ですが、この青年部会で培ってきた事を大切に、今後の仕事に活かしていきたいと思ひます。残られる青年部会員の皆さんにも大変厳しい時代が続きますが、新部会長のもと、一致団結して、この青年部会がますます発展する事をお祈りします。最後になりましたが、会員のみなさま、事務局のみなさん大変お世話になりありがとうございました。



青年部を振り返って

(有)協和組 田中 誠司

今こうして卒業の原稿を書いていること自体が、奇跡のような気さえしています。

青年部設立の準備段階から参加させて頂いておりますが、正直なところ名前だけの在籍で何もしてこなかったことに内心忸怩たる思いが致します。

それでも今まで面識のなかった出雲圏内の同業者の方々と知りあえたことだけでもよかったですと思ひます。各々が自信と見識に満ちあふれ、企業活動の最前線で活躍される姿に大いに刺激を受けました。

これから先、ますます厳しさを増す経営環境を前にして、嵐の海に浮かぶ木の葉のような心境ですが、至らぬ者なりに自分のできる精一杯の事をしていくつもりです。

末筆乍ら、青年部の皆様と関係者の皆様の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。色々ありがとうございました。



青年部会を振り返って

中国道路整備(株) 早戸 弘司

幽霊会員として数年間お世話になりました。元来、会社の所在地から言えば松江支部ということになりますが、会社設立当時、本社が出雲ということもありそれ以来30年間出雲支部でお世話になっています。

また、交通安全の専門業者ということで全県を渡り歩く当社にとって、出雲支部の皆様と何かと疎遠になりがちな部分もありましたが、青年部会という媒体により管内各地の皆様と多数知り合い、交流できたことを本当にうれしく思っています。

青年部会の取り組みも年々進化し、当初に比べると大変レベルの高い活動をいとも簡単にこなしておられる執行部の皆様にはただただ脱帽するばかりです。これも出雲支部のレベルの高さを象徴しているのではないかと思います。我々建設業に携わる者にとって非常に厳しい時代を迎えています。今後島根の建設業を牽引すべき青年部会であり続けて頂きたいと思ひます。

本年をもって退会ということになりましたが、今後も引続き皆様方にご指導いただければ幸いに思ひます。

最後に、歴代の部会長並びに執行部役員の皆様には大変お世話になり本当にありがとうございました。また、何のお役にも立てなかったことを心よりお詫び申し上げます。長い間本当にありがとうございました。



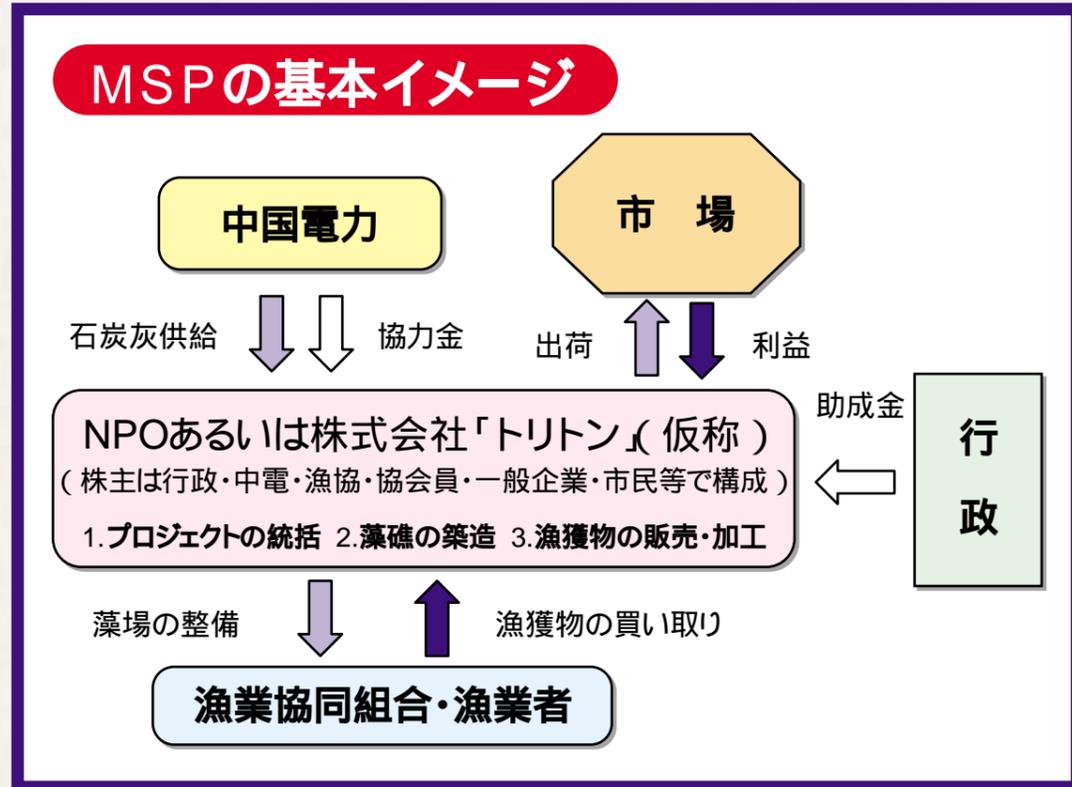
Mermaid Smile Project 概要説明



(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会
経営研究委員長 福田美樹

我々、経営研究委員会では、『公共事業の削減という時代に対応して行くのか』をテーマに調査・研究を進めてまいりました。平成14年度には福島県建設業協会の『介護』への取り組みを垣間見、あらためて建設業を取り巻く環境がいかに厳しいのかと言う事を痛感しました。それを受けて平成15年度は島根県土木部建設産業対策室へ出向き、海の磯焼け対策に新しい産業が見出せないかとアプローチを重ねた結果、本年度の建設産業新分野進出支援事業に取り上げて頂き、このプロジェクトがスタートしました。

名づけて、MSP(マーメイド・スマイル・プロジェクト)。事業のイメージは下図に示すとおりですが、要約しますと、三隅火力発電所(三隅町)から排出される石炭灰を活用して藻礁(そうしょう)をつくり、海藻の漁場を造成し、栽培漁業に進出するというものです。



藻礁の設置状況(上磯町)



ご承知のとおり、この石炭灰は平田市の河下港に陸揚げされ、地盤改良材や生コン等に活用されておりますが、北海道ではすでに藻礁に石炭灰を混ぜたものを海に沈めていると聞き、早速『現地を見よう!』ということになり、経営研究委員会のメンバーを中心に10名ほどで北海道上磯町へ飛びました。日本データサービス㈱の協力を得て、北海道渡島支庁・水産課から3名の方に来て頂き、上磯茂辺地(かみいそもべち)地区が取り組んでいる事業並びに現地の説明を受けることができました。こちらでは着生試験を繰り返し、フノリの栽培漁業をやり、成果をあげているとのことでした。

この視察を受けてまずはワーキンググループを編成し、さらに今後の展開としては、
藻礁の試験施工(鹿島町)
アドバイザー及び㈱エネルギー・エコ・マテリアルの招聘
参加企業の募集
という計画を立てております。

この事業は大いに夢を語れるプロジェクトであると確信しております。

“皆さんも一緒に夢を見ませんか!”



視察団の勇姿!



H15.11.12付 建設興業タイムスより